



TITLE:

平成16年度健康科学講演会実地報告

AUTHOR(S):

奥津, 文子

CITATION:

奥津, 文子. 平成16年度健康科学講演会実地報告. 京都大学医学部保健学科紀要: 健康科学 2005, 1: 50-50

ISSUE DATE:

2005-03-31

URL:

<https://doi.org/10.14989/39553>

RIGHT:

講演会報告

平成16年度 健康科学講演会 実施報告

奥 津 文 子

1. テーマ：予防・保健活動の経済効果
2. 講 師：京都大学大学院経済学研究科
教授 西村周三 先生
3. 日 時：平成16年9月4日 13:00～16:00
4. 場 所：京都大学医学部保健学科 第2大講義室
5. 講演内容

主要項目

- ・なぜ予防・保健か
- ・国の医療財政の仕組み
- ・国民医療費負担
- ・公的保障の拡大に関する疑問
- ・外来診療への疑問
- ・費用効果の視点
- ・費用効果分析（CEA）と費用便益分析（CBA）
- ・QOLの測定
- ・満足度とは何か

以上の内容に関して、西村教授は、ご自分の長年の医療経済に関する研究を基に我々に非常にわかりやすく、実践的にかつ、医療に従事する我々の意図を汲み取った味のある講義を精力的にして下さった。本年度のこの保健科学講演会は、医療短期大学部が京都大学医学部保健学科に改組されて初めての記念すべき会である。参加者は、我々教員と学生、附属病院に勤務する看護師の皆様が中心だった。そして、参加者の皆様のお顔から先生の話術に魅せられた有意義な3時間の講義であったことが推測できた。同時に医療や看護は、科学的かつ確かな治療や援助、献身的な援助といった概念に、さらに、その評価や効果、費用対効果といった概念をしっかりと持って従事することの重要性を示唆していただいた。

こうした内容は、「二次予防の検診での異常が発見されても、必ずしも受療継続行動につながらず、結果として医療費削減には全く結びついていない」、また「医療従事者には費用対効果の視点の欠如」といったもので、長年の先生の研究結果からの指摘である。

一方で、教授は医療や看護は経済効果だけで評価するものではないことも強調された。そこで、医療の質評価について3つの分析指標を概説された。それは、略語で CEA・CBA・CUA というものである。CEA は、費用に対する効果を「寿命の延び」で測定するものである。また、CBA は費用に対する便益を「貨幣」で測るものである。しかしながら、医療・医療の効果だけで測られるものでもない。また、失われた生産額や家事労働を貨幣換算して測れるものでもない。従って、どちらも命の価値を貨幣で測れるかといった疑問が残る。そこで登場したのが CUA であると説明された。その CUA は効果を QALY（Quality Adjusted Life Year：質で調整して生存年）で測定することで CEA を補完しようとした方法である。

この他にも、患者の満足度を測定する指標などもちいて医療を効果的に測定しようとする試みがあることも話された。

そして、国民にとって健康であること、的確な治療を安価で安全に受けることは究極の目標である同時に、医療者にとってもそれは究極な課題である。しかしながら、限られた財源で的確な医療を受ける、また健康を維持するためには、国民と医療者の双方向からの努力が最も重要な要因であることが切々と伝わってきた講義であった。

最後になりますが、ご多忙な中、長時間に渡り興味深く意義のあるご講演を下された西村周三先生に、心から感謝申し上げます。